

吉川敬之さん

(三条市三条消防団第三方面隊大崎分団所属)

三条市内にお住まいの吉川さんは消防団の一員として水防活動、救助活動に携わりました。当時の状況、水害を経験して想うことなどを消防団員という立場からお話いただきました。



12日の夜から降り続いた雨で13日の朝、家の前の坂道は川のように水が流れていました。6:00 頃、近所の布施谷川が溢れ一部の家は浸水が始まったとの連絡が入り、私は直ちに現地に向かい他の団員 14・5 名と 300 個ほどの土のうを堤防上に積みました。8:00 頃には土のうを積み終え、近所の方々の炊き出しをいただいていた。そのとき無線で、**五十嵐川が危ない**との連絡が入りました。

私たちは西大崎に向かいました。9:00 頃に現地に着くと、**五十嵐川は既に堤防天端から手が届きそうな位置まで水位が上昇し、堤防の法面からは水が噴出していました**。私たちは急いで月の輪工法という水防活動に取り掛かりました。人海戦術で行う土のう積では水の噴出を止められず、近所の建設業者さんが重機で大型土のうを積んでくださって何とか噴出をくい止めました。

朝からずっと水防活動を行っていたため、私たちは早めの昼食として、用意していただいたパンと牛乳を食べているときでした。今度は**三竹で堤防から水が溢れ始めた**との連絡が入り急いで現地に向かいました。到着時、既に堤防から水が溢れていて土のう積みが行われていました。私たちも先着の消防団に加わり手作業、手渡しで堤防に土のうを積んでいきました。ふと対岸を見ると**曲渕の堤防にも土嚢が積まれていました**。「何とか水位が下がってくれたらよいが・・・。」嫌な不安を感じました。

その後も三条市内で水防活動を行い消防団の詰め所に戻ったのが 18:00 頃でした。情報が錯綜し、道路は寸断され、夜は二次災害の危険もあることから、思うように行動ができず悔しい思いをしながら詰め所で 14 日の朝を迎えました。周囲が明るくなってきた頃、五十嵐川の様子を見に行きました。**堤防に立つと対岸の曲渕の堤防がなくなっていました。**



私たちは常盤橋付近に救助に向いましたが、徐々に見えてくる一面の泥海に思わず目を疑いました。最初は避難誘導を行い、続いて飲料水・食料を運搬する作業に入りました。**ゴムボートに物資を乗せて胸まで浸かる泥水をかき分け避難所を目指しました。**途中、「救援物資がほしい」との声を何回かお聞きしましたが、心を鬼にするしかありませんでした。避難所では着の身着のまま避難したであろう方々が大勢いました。おそらく逃げることで精一杯だったと思います。

救援物資を運んだ帰りは被災者を救助しながら戻りました。ボートが被災者でいっぱいになると、被災者をおんぶして泥水をかき分けながら避難所を目指しました。このとき声をかけた方々の半数は「**食料や飲料水があれば家の 2 階で生活する**」と言われました。災害時の盗難を心配されたのかもしれません。

上空を飛び交うヘリコプターは低空飛行のため、その音は非常に大きく、安否確認の声は家の中に響かないほどでした。



家の中に子供が取り残されているとの情報が入り、一瞬、血の気が引きました
が幸い無事で何よりでした。また、妊婦さんも救助しましたが、無事元気な赤
ちゃんが生まれることを願うばかりでした。このような**救助活動は 14 日っぱ
い続きました**。15 日に自宅へ戻ると非衛生的な泥水に長時間浸かっていたせい
か、足の皮膚が炎症をおこしていました。

本当に大変だったのは泥水が引いた後でした。私は仕事上お付き合いのあ
るお客さんの家やボランティアとして各地に後片付けに行きましたが、いずれも
泥出し・ゴミ出しは先の見えない作業で、畳をはぐって床板をはいでスコップ
で地道に泥をかき出すしかありません。このときは仕事で使っている噴霧器が
役立ちました。泥を洗い流してくれましたからね。このような**泥出し・ゴミ出し
作業は 10 日ほど続きました**。

あれから 5 年が経ちました。先日も大雨が降ったのですが、消防団はいち早
く消防団の積載車を準備し、川を見回りました。水害は 2 度とおきてほしくない
ですが、水害を経験して防災への意識は高まりました。何事も**備えが大切であ
ること、地域の方々の協力が災害防止、災害軽減に一番大切であることを実感
しています**。今年の 11 月には水害復興マラソンが開催されるそうですが、今
回の水害を良い意味で思い出すマラソンになればと思います。



破堤した場所は公園として整備されています。